江差町立南が丘小学校　　研究部通信

南小たば風通信　２０１９

令和２年２月１０日（月）　第３０号

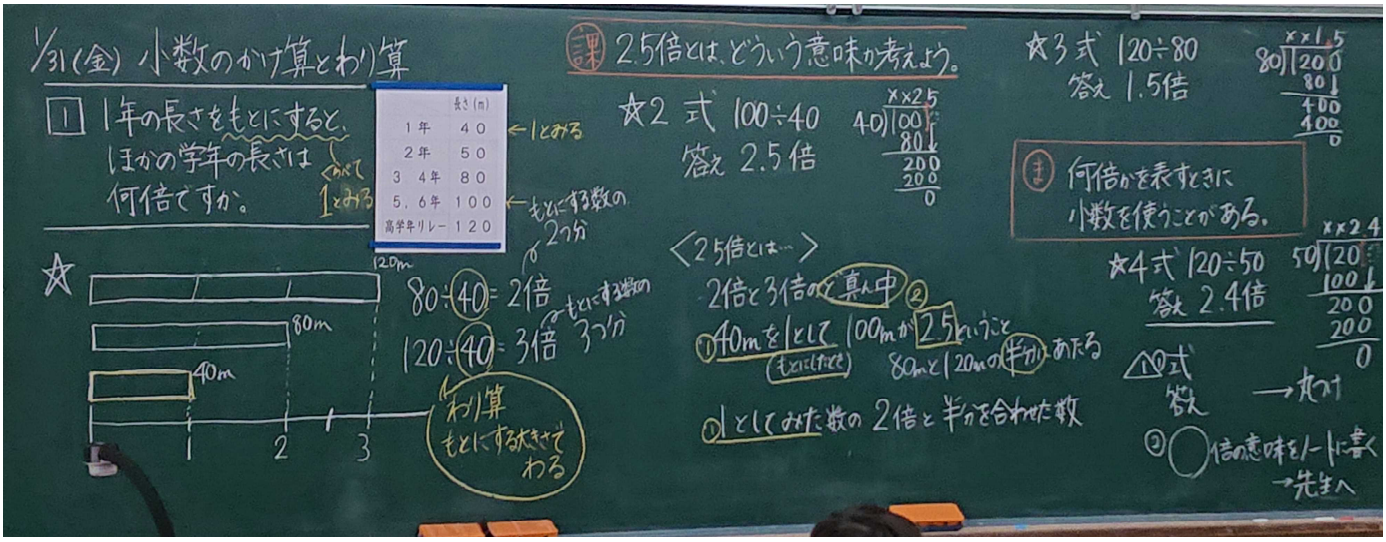
伊達市立伊達小学校　公開研究会　参加レポート

令和２年１月３１日に学校力向上の指定を受けている伊達市立伊達小学校の公開研に参加してきました。伊達小学校では「確かな学力」を身に付けさせることを主題に掲げ、校内研究では教師力の向上に直結する「日常授業の改善」を中心に取り組んでいました。

公開研は初任段階の研修も兼ねており、授業研も初任段階の先生方が行っていました。また、講演では初任者指導アドバイザーで「味噌汁・ご飯授業」を提唱している野中信行先生が働き方改革などの視点から日常授業の改善の必要性をお話しくださいました。

１．公開授業　４年算数「小数のかけ算とわり算」

公開授業では、４年生の算数「小数のかけ算とわり算を考えよう」から小数倍の授業を参観しました。初任段階３年次の先生ということでしたが、４０人近くの子どもたちを相手にＴＴの先生と協力しながらしっかりと授業を進めていました。教科書を読むときにも、読む場所を伝えてから、「指さし→ペア確認→挙手で全体確認」をして全員で読むなど、指示を出しっぱなしにせず、確認までしっかりと行っていました。また、机上の学習用具や実物投影機の活用、「めあてとまとめ」などについてはほぼ本校と同じ取り組みでした。



さらには、傍観者を少しでも減らそうとペア交流などを活用し、全員参加を心がけて授業を進めていました。

事後研では、ペア交流を多用していたことに関して授業者が心配をしていましたが、「授業者が交流の目的を意識できているのであればよいのではないか」との意見が出されていました。また、ペアだけではなく全体の交流も入れていたので、さらなる理解の向上につながっていたのでよかったという意見も出ていました。ただ、最後のまとめに少々課題があり、めあてとまとめの整合性の問題や、教師主導で強引なまとめになっていたので、子どもに聞きながら子どもの言葉でまとめていけばよかったのではないかという部分に関して指摘を受けていました。

２．師範授業「いついまいかいや！」

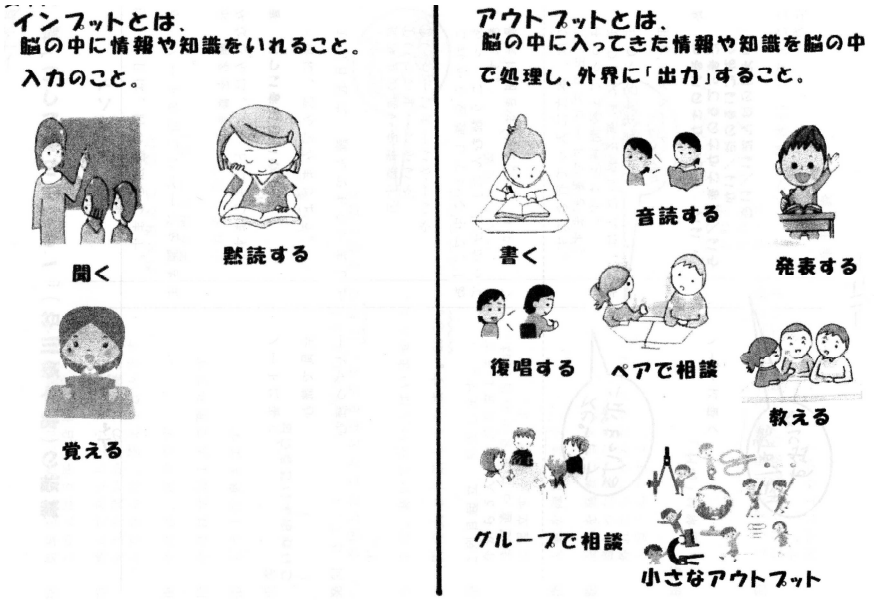
野中先生が飛び込みで６年生を相手に国語の詩の授業を行いました。野中先生の解説によると、この授業の組み立ては「板書する→ノートに写す→読む→ときどき考える」という形の非常にシンプルなもので、見てもらいたかった部分としては、「日常授業の進め方３か条」の①全員参加 ②スピード・テンポ ③フォローの３つをどのように行っているかということだそうです。

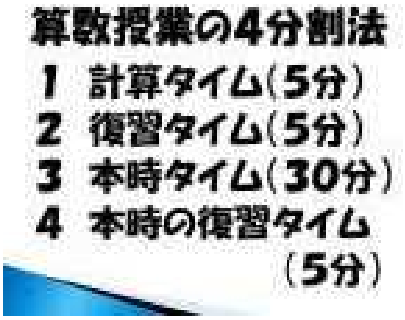
全員参加については「全員にノートに考えを書かせる」「ペアで相談」「当たったら全力で喜ぶ・はずれたら悔しがる（練習もする）」「列指名」「音読」などいろいろな場面で行っていました。また、スピード・テンポについては「ノートに写す時間は板書が終わってから５秒まで」「自分の意見をノートに１５秒で書く」「ペアの相談は２０秒」などだらだらした時間を作らないような時間設定を意識していました。フォローについては「発問・指示→確認→フォロー」を一つのまとまりとして意識し、指示を出したら毎回必ずフォローまで行っていくことが大切だとのことでした。

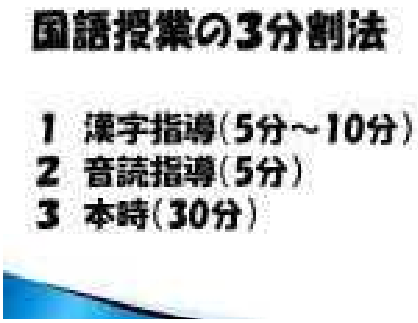
３．講演「日常授業をどのように改善していくか」（要約）

毎日行われている日常の授業が、今まで大きな課題になってこなかった理由としては、ほかの業務で忙しかったり、毎日がなんとか回転しているから今のままでよいのではないかという考えが大多数を占めていたからである。ところが現実としては、授業準備ができないので、指導書を軽く読んで授業に臨むか、ひどいときにはぶっつけ授業なんてしている人もいるかもしれない。そのような授業では「特定の子どもの発言だけで進む授業」「先生だけがしゃべっている授業」「学力が定着しない授業」がほとんどである。

じゃあどうすればよいのか？仕事量が減るどころか増えてきている中、限られた時

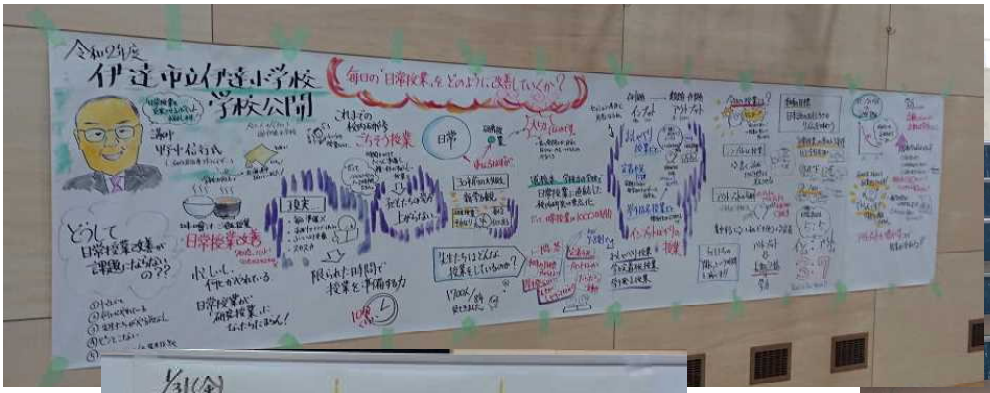
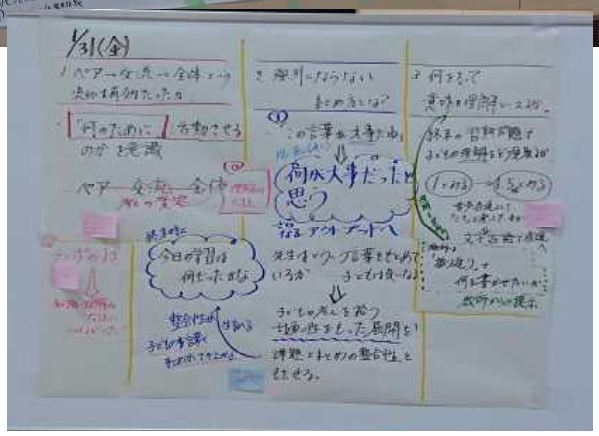






間を有効に活用するしかない。すなわち、短い時間で授業を準備する力が必要である。１教科１０分を目安に準備を頑張っていってはどうか。そこで有効な考え方としては、日常授業にある程度の型を作ること。**ユニット学習**はその一つの考え方になるだろう。

そもそも授業とは何なのか。**インプットしたことをアウトプットすること**、その一連の過程を授業だと私は考える。今、多くある授業は、インプットだらけでアウトプットがとても少ない。イン：アウト＝９：１なんてひどい授業もある。いや、そのような授業が多いのではないか。**黄金比はイン：アウト＝３：７**である。でもそれはすごく難しい。なので、日常授業では７０点の授業を目指そうと言っている。１００点満点である必要はない。まずは、**イン：アウト＝５：５**を目指そう。それでもかなりのアウトプットを意識しなければいけないと思う。そこで私が提案しているのは**小刻み活動法**というもの。インプットとアウトプットを小刻みに繰り返していく方法である。また、日常の授業では師範授業で示した「日常授業の進め方３か条」の①全員参加 ②スピード・テンポ ③フォローも意識して授業づくりを行っていってもらいたい。

以上が、伊達小学校で行われた研究会の主な内容です。公開授業、師範授業や講演については回覧している資料もあわせてお読みいただければと思います。また、野中先生の提唱されている「味噌汁ご飯授業」については、明治図書から国語編と算数編が出版されていますので、興味のある方はぜひ読んでみてください。

荒谷 真一